

水俣

から照らす

原発災害と足尾銅山鉍毒事件

このシンポジウムは、地域的・国際的な活動を展開してきた水俣病受難者・支援者の方々を熊本県水俣市からお招きし、そのご経験から学ぶとともに、足尾銅山鉍毒事件や原発被災問題との関連性を考える企画です。

日本が先進工業国として「発展」を遂げてきた背景には、どのような犠牲が発生してきたのか、そして問題解決のためには何が必要であるのかについて考えます。

2015年6月28日(日)

入場無料・事前予約不要

時間 : 9時30分(開場・受付開始) ~ 12時30分(終了予定)

場所 : 宇都宮大学 峰キャンパス 大学会館2階 多目的ホール

主催 : 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター(CMPS)

* プログラム *

- 9:30 開場・受付開始
- 10:00 開始・企画の趣旨説明・登壇者紹介（総合司会：高橋若菜／国際学部准教授）
- 10:10 第一部 水俣で活躍されるほっとはうす関係者による講演と質疑応答
- 11:20 第二部 パネル・ディスカッション（司会：清水奈名子／国際学部准教授）
～足尾銅山鉍毒事件と原発事故の関係から考える～
- 12:30 終了（閉会の挨拶：多文化公共圏センター長 渡邊直樹／国際学部教授）

* 登壇者紹介 *

永本 賢二（ながもと けんじ）

水俣病受難者。1959年生まれ。資料館でも皆の代表で語り部として活躍中。「梅戸港のチッソのクレーンはスーパーマンかウルトラマン、水俣病や障害を理由にいじめられていた小学生の僕を励ましてくれた。」辛い語りの中にも詩人のセンスとユーモアが光る。

松永 幸一郎（まつなが こういちろう）

水俣病受難者。1963年生まれ。5年前は、マウンテンバイクで快走していたが今は車いすをかつこよく乗りこなす。排水が原因と知りながら生命がないがしろにされた水俣事件に、たまらない悔しさがこみあげる。それでも、誰にも負けない将棋3段の腕前は自慢の力、肥後名人戦地区代表の優勝の賞状は宝物。

加藤 タケ子（かとう たけこ）

ほっとはうす施設長。1950年生まれ。人はどんなに重い障害があっても地域で働いて生きていくことを大切にされることを日々実践。患者さんと共に水俣病から宝物を伝えることをライフワークとし、声をかけられたら世界のどこへでも出かけていく実践家。患者さんに寄り添う日々から、たくさんの方の気づきをいただいている。

西川 峰城（にしかわ みねき）

「那須野が原の放射能汚染を考える住民の会」及び「栃木県北ADRを考える会」代表。那須塩原市在住。

高際 澄雄（たかぎわ すみお）

宇都宮大学名誉教授。宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター前センター長。放送大学客員教授。2014年10月より谷中村の遺跡を守る会会長。専門領域はイギリス文化・文学研究。主として、イギリス18世紀文学と文化の研究に従事。現在、ヘンデルの歌劇と文学の関係を調査。



* 会場アクセス

宇都宮大学 峰キャンパス
〒321-8505 宇都宮市峰町350

* お問い合わせ先

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター(CMPS)
TEL/FAX : 028 - 649 - 5228 (月火水金 9:00~17:00)
E - mail : tabunka-c@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp